

魅力ある福島高校の取り組み

「自ら学び 表現力ある福高生」

福島高校1年間のまとめ

わたしがレポートします。



福島高校2年生 生徒会長 萩原 渉くん

皆さんこんにちは。今回で3回目の投稿です。よろしくお願ひします。

福島高校の1年間

3年生も卒業し、福島高校での1年間があつという間に過ぎようとしています。

ということで今回は1年間の出来事を振り返り、福島高校の1年間について紹介していきたいと思ひます。

1年生の入学式があるはずなのに歓迎遠足というものが行われず。1年生は遠足2日前から自然の家で宿泊研修が行われます。そこでは学校生活に必要な集団行動の練習をはじめに、カレー作りや大縄跳び大会、クラスでの出し物の発表などクラス

メイトや学年全員と仲を深めることができます。この宿泊研修を通して、みんなたくさんの友だちを作り、遠足が始まるころにはみんなとてもいい笑顔で遠足に参加します。遠足では、2・3年生の先輩方や先生方との会話を楽しみながらハイキングコースを歩き、学校全体の仲を深めます。

福島県福島高校との交歓会

また今年、福島県立福島高校（F・F）との交歓会が行われました。同じ校名という絆から生まれたこの交歓会では、F・Fの合唱部を招待し、行われました。お互いの学校紹介やF・Fの震災復興活動紹介などが行われました。震災を体験した生の声を聞き、わたしたちに震災の怖さや人とのつながりを考えさせられました。このような交歓会ができたことにも感謝したいです。



卒業式がありました

先月、3月1日に卒業式があり、3年生の先輩方が卒業されました。福島高校の最上級生としてやってこられた先輩方の背は大きく、学校生活や部活動などでたくさんのことを教えていただきました。本当に卒業おめでとうございます。

これから先も伝統を守り、これから入ってくる後輩に伝えていきたいと思ひます。



ピロリ菌除菌について

串間市民の皆さま、こんにちは。市民病院内科の中西です。

早いもので、鹿児島大学の医局から串間に派遣されて今年が6年目になります。…と、昨年と全く同じ書き出しでした。この串間にいつまでいられるかは分かりませんが、一日一日を大切に過ごしていきたいと思ひます。

さて、昨年の医療講座は串間市民の皆さまへの提言をいくつか書かせていただきましたが、今年にはピロリ菌の除菌治療について書かせていただきました。これまでにも何度かほかの先生がピロリ菌に関連した内容は書いておられますが、つい先日除菌治療の適応について大きな変更がありました。テレビのニュースなどですでにご存じの方もいらっしゃると思いますが、それはピロリ菌による慢性胃炎に対する除菌療法に、健康保険の適用が認められたことです。

これまででは①内視鏡検査もしくは造影検査で胃潰瘍もしくは十二指腸潰瘍と診断された方②胃MALTリンパ腫の方③特発性血小板減少性紫斑病④早期胃癌に對する内視鏡的治療後の方、これらのいずれかに当てはまり、かつピロリ菌陽性の患者さんしか保険での除菌治療は認められていませんでした。

しかし今回、内視鏡検査で胃炎を認め、それがピロリ菌感染によるものと診断された方も除菌治療が保険で受けられるようになったのです。

これまでわれわれ消化器専門医の間では、ピロリ菌に感染している胃は胃潰瘍やMALTリンパ腫を起すことがすいだけではなく、発がんのリスクが高いといふことは常識でした（10年で2・9%の人が発がんするとされています）。内視鏡検査をするピロリ菌に感染している人は特有の胃炎を起しているのです。将来的に発がんする可能性があるといふことが、除菌するとすると自費になるため、積極的な治療を勧めづらい現状にこれまで歯がゆい思いをしてきました。今回ようやくそのような状況が開かれることになったのです。

2009年の医療講座でも書かせていただきましたが、特にこの串間は胃がんでの死亡率が高く、宮崎県の平均の倍近くになっています。これは健診の受診率の低さに加え、串間は高齢者が多いことも一因だと思われまふ。実はピロリ菌に感染している人は、衛生状態の良くない時代に生まれた世代の方々に多いからです。ですから市民の皆さま、特に高齢者の方々は積極的に健診（内視鏡検査）を受け、ピロリ菌による胃炎と診断されたら除菌治療を受けることをお勧めします。

最後に、その除菌治療についていくつか注意点を書いておきます。実はピロリ菌に感染しているかどうかだけなら、息を吐いてもらう尿素呼吸試験や、血液や尿中の抗体、便中の抗原などを調べるだけで診断できます。しかし、今回認められたのは「内視鏡検査で胃炎と診断され」かつ「各種検査のうち一つでピロリ菌陽性と診断された場合」です。つまり、必ず内視鏡検査を受けて頂かならなければいけません。この聞く「カメラはおじい」といって敬遠される方もいらっしゃると思いますが、検査がきつくないように薬で頭をぼーっとさせて受けるなどの方法もありますので、尻込みせず一度受けてみてください。

ほかにも除菌治療にあたっては、下痢などの副作用を起す場合もありますし、最近では治療に対する耐性菌も増えていますので一回の治療だけでは成功しない場合もあります。

しかし当院では内科の井上龍一医師が昨年「日本ヘリコバクター学会」の認定医を取得し、ピロリ菌の除菌専門外来を行っています（宮崎には同認定医は7人しかいません！）。同医師が内視鏡検査による診断から治療まで一貫して行いますので、自分がピロリ菌に感染しているか知りたい、感染しているならば除菌したい、と考えていらっしゃる方は、ぜひ一度当院のピロリ除菌専門外来を受診してみてください。

著：串間市民病院 内科 医師 中西 千尋

chihiro Nakanishi